

酔さめて後歎きしが如し歎けども甲斐なし、此罪消へがたし
何に況んや過去の謗法の心中に染みけんをや。

赤裸々の自己は何であるか。現實のこの悶えの自己は何であるか。理想に見た自己を現實に即せしむることなしにありのまゝに見た現に生ける自己、信念把持の缺陷に苦しみつゝある自己喜怒哀樂にぐるぐると感情の轉換をなして泣き喜ぶ自己、切れば痛いと呼びつゝ碧血を出す自己、そは何であるか。かくした悶えの苦しみを現在のあらゆる刹那に味ひつゝある自己は、同時に苦しめらるべき自己であらねばならぬ。所謂苦しめらるべき因を具した果の自己でなくてはならぬ。

こゝまで考へて來て縦に見る自己の一端が心に浮んだ時に光明の一閃は見へて來るのである。「先業の所感なるべし。」の一語を聞いて驅け廻りて疲勞したるわが身が自己のポイントの上に

學徒と大法西漸

地上には幾つかの噴火口が活動を開始し、もの凄しい嵐が吹きまくり人類史上未だかつて經驗せざる狂亂の氣運の中に立つて居り政治家は狂奔し實業家は血眼になり、學者は沈思默考に耽つてゐる今日、世界を襲ふてゐる世紀の嵐は容易に鎮まらうとせず世界を擧げて明日への運命を測り兼ね不安と焦燥とに、お

安住して深く探り入らうとするとき、更に新たなる渾身の力が涌き出でて長途の遠征を物の數ともしない所謂蘇生の痛感が必要と味はれるのである。

醜陋と多苦多難の自己を探り進みつゝ湧き出づる泉を見た折に渾身の力をこめて叫ぶのは「吾は凡夫なり」の痛切なる叫びである。「吾は凡夫なり。」の叫びをなす、凡夫は既に單なる凡夫ではなくリフライン（精練）されたる凡夫として出現するもので、叫びが直ちに懺悔の階級にまで進み行く時に光りある凡夫が輝くのである。學ぶ事難きに非ず、信ずること則ち難し、信ずること難きに非ず、持つ事實に難し。

明治天皇御製

われと我が心折々かへりみよ

しらずくも迷ふことあり

永 田 壽 禎

の、いてゐる。かゝる惡天候の今日我國に於ては皇紀二六〇〇年の意義ある年を迎へ更に進んで内政外政共に充實を計り新東亞共榮圈、要道の確立を期して皇道翼賛新体制を樹立し實に二六〇〇年の歴史を飾らんとしてゐるのである。然るに學生並に我祖門下は今事變の國家的危難に於て、ひとり軍部の責任との

みして見忘我状態になつてゐるのではないかと考へられるのである。或る老居士は日露戰爭當時の學生は羈氣を示し國を擧げの熱狂に答へたのに現今の學生は余りにも事變に無關心であるのにあきれて、來たる可き國家の不安を嘆げいたのである。遠く、歐羅巴大戰に於て英國やフランスの大學生中八〇％は義勇軍として銃を執つて第一線に立ち學園にのこつたものは幾人かの身体虚弱者であつた、と言はれてゐる。又現在の支那に於ける學生軍も、之と同じ様な役割をもつて活躍してゐる、抗日主義のリーダーは、學生インテリによつて、占められておるとさへ言はれてゐる。軍隊と學生との質的な相異は戰鬪能力の上から認められないからとて學生軍をあなどることは出来ないのである。如是各國共に學生は銃後に戦線に一役買つて起てゐるのである。現在日本の學生軍が若き世代を代表して、おりながら國家的昂奮の舞台に立ち上らないのは寧ろ奇觀ではないだろうか？ 悠々然として構へ徒らに附和雷同なる所なく仲々頼母しい落着き振りを示してゐる様にも思はれるが、全然無關心で過してゐるのではないだろうか、うたがはれる程の落着き振りでもある。學生は他人の將棋を觀戰してゐるのであるが、時には其の將棋の駒にさへならなければならぬのである。英國人は石で橋を架け米國人は鐵で橋を架けるがドイツ人ば頭で橋を架けると自慢すると云ふが、日本人はひとつ其の頭、學生の頭で東亞の安定、世界の絶對平和への建設橋を架くべきである。此の建設橋を架ける第一人者は吾々日蓮門下學徒である。

ドイツが頭で橋を架けるよりも、もつと偉大なる武器をもつてゐるのである。即ち末法の大良藥法華經の樞軸たる立正安國精神日蓮魂此れである。一闍浮提第一の本尊此の國にたて給ふた宗祖の教團眞實の佛法「月は西より出て東を照らし日は東より出て西を照らす佛法も又以て如是正像には西より東に向ひ末法に入りては東より西に往く」又「佛法は必ず東土の日本より出づべきなり」と祖師大上人は七百年餘年前に大法の西漸なる事を喝破され今日吾々學徒に東亞建設の架橋素として與へられし事は今や全く昨日今日の現實的神秘的ニユースを見るが如くである。佛陀大覺世尊の本弟子日蓮上人の末弟に到る吾々學徒は此の赫々たる金文を拜して慄然たるものを覺え今迄なしかたり今なほなしつゝあるすべてを抛つて宗祖の本懐に直參し今こそ上人の眞の大教を發動し神聖なる教訓を仰ぎ純粹權威に服さねばならないのである。

實に大覺世尊の絶對的生命の澄瀾たる血脈よりあふれた四ヶ格言立正安國、國体開顯の妙旨を吾身に帶して「日蓮が弟子檀那等は臆病にて叫ぶべからず」の祖訓を奉じて以て學徒の責務を全ふすべきである。現在の隣邦四億民衆の佛法は個人主義に慣れ迷信に生活を誤り天帝の爰に國を賣る支那民衆佛、法はすでに亡びつゝあり傳道を使命とする僧侶は民衆の信憑を離れて獨善的な所行に満足し寺塔は徒らに莊嚴の煙に暗く僅かに一部の佛教居士によりて佛法の社會性を見るのである。此の落莫悲慘なる現時支那の狀勢、佛教界を蘇生さすめるは眞に救濟力を有

する大乘佛教と之の指導に任ずる聖者とを渴仰して止まぬ状態である。門下學徒よ!!此の絶好のチャンスを完全にキヤツチして大乘佛教の發展地たる唐土に日本の眞佛教を移し支那國土の開顯と民衆の救濟を行ふことは大乘佛教、吾宗團、吾門下學徒の大使命であり佛祖の本懐であり淨行である。大法西漸の大使命達成と皇道翼賛新体制確立と相待つて日滿支一体協和し得た

「學び」の觀念

「學び」の觀念とは云ふもの、此處では、普遍的な名稱としての觀念の問題であり、特殊的分科たとへば、哲學とか、宗教學とか、科學等に於ける、學の觀念を謂ふのでは無い。

而して、私自身、學生の身上で有り乍ら、かうした考へを懐くと云ふ事は、當今の學生氣質から云へば一つの増上慢にも似た逃避者の様もあるが、とにかく、私は所謂「學び」に對して此の様な觀念を有して居る。あまりに、爺々臭いと言つて終へば、それまでであるが、私は、私自身の「學び」の觀念を信じ、又それが決して古臭いものでなく、學生として、より新しい「學び」の道を歩むには、ぜひとも、必要な常識でなくてはならないと思つて居る。

日蓮聖人の行學觀が、諸法實相抄の「あひかまへて あひか

ならば、こゝに神武聖帝の八紘一宇、光宅天下の天業が恢弘され世界燦然たる眞文明の光輝に浴し興亞の嵐は永遠の太平和建設となり、吾々學徒によりて宗祖の本懐が全ふされるのである。今こそ學生學徒の勇氣を見せ東洋和平の建設橋の基とならんとを誓かつて筆をおく次第である。

於 厚 德 寮

石 川 是 行

まへて 信心つよく候て三佛の守護をかうむらせ給ふべし。行學の二道をはげみ候べし。行學たへなば佛法はあるべからず。我もいたし人をも教化候へ、行學は信心よりをこるべく候。力あらば一文一句たりとも、かたらせ給ふべし」にあり。又其處に宗祖の「學び」の觀念が發足してゐるのであるが、現今、世間で謂ふ所の「學び」は唯「よく學べ」の意義であり、又その觀念である。即ち、「學び」に包含されなければならぬ「行ひ」を全く忘却して居る。

恐らく、最近の教育を受けたものに對し、尋常小學修身教科書卷一の「ヨクマナベ」「ヨクアソベ」の二語を示して「學び」の意義は何れかと問ふたならば、必ずや「よく學べ」のみを以て指すであらう、私は此處に大きな誤謬があり、又學びの觀念